ごみ処理手数料

無駄が多過ぎる 奈良市 環境行政

値上げ反対

年間損失 １３億円

奈良市議会議員

三橋 かずし

Mihashi Kazushi

大幅値上げ 家庭系・事業系とも

奈良市は、平成30年9月定例市議会に、家庭系及び事業系一般廃棄物の処理手数料、並びに産業廃棄物の処分費用を大幅に値上げする関係議案を提出した。

具体的には、家庭系一般廃棄物について１００kgを超える10kgごとに60円を１００円に、事業系一般廃棄物について10kgごとに１００円を１６０円に、産業廃棄物について10kgごとに２００円を２６０円に、それぞれ値上げする内容である。

家庭系ごみ処理手数料の値上げは一般家計に直接影響があることは明らかだが、**事業系ごみ処理手数料についても、様々な商品やサービスの価格に転嫁されることになるので、一般家計に著しい打撃を与えることになる。**域内経済も落ち込むだろう。

消費税増税と二重の打撃

三橋の追及もあり、市長は関係議案を一旦取下げたが、再び平成30年12月定例市議会に提出し、自民、公明、国民、立民の議員などが賛成し、令和元年10月からの大幅値上げが決まった。**消費税増税と同時の値上げで家計への二重の打撃となり、市民生活を顧みない施策である。**

10kg当たりごみ処理手数料

種別	値上げ前	値上げ後
家庭系一般	60円 100kg超過分	100円 100kg超過分
事業系一般	100円	160円
産業廃棄物	200円	260円

事業への悪影響 市長は無視

ごみ処理手数料の値上げは、ごみ処理事業者や、飲食業等を営む様々な排出事業者の経営にも悪影響を与える。三橋は、市長に対して、「ごみ処理手数料の値上げによって事業者の経営状況が悪化して経営破綻し、廃棄物処理サービスの低下に繋がることになるのではないか。」などと追及した。

これに対して、市長は「ごみ処理手数料を値上げしただけで廃業や倒産することは考えにくい。」などと答弁し、民間事業者の経営の厳しさへの理解が全くない認識であった。市長を始め奈良市は、**ごみ処理手数料を大幅に値上げする関係議案を提出しておきながら、民間事業者の経営状況に関する調査も実施していない。**

元銀行員として民間事業者の経営の厳しさに接してきた三橋にとっては、奈良市のこのような認識の実態は、行政とは思えないほどに浅はかであると評価せざるを得ない。実際にも、三橋が指摘したように、**ごみ処理事業者だけでなく、飲食業等を営む中小零細事業者などからも、深刻な経営難に陥るとして、値上げに反対する切実な請願も提出された。これらの負担増は、一般家計にも影響する。**

細かすぎる分別 困惑する高齢者

家庭系ごみの分別に関して、主に高齢者世帯から深刻な相談が寄せられている。奈良市は、非常に細かく分別方法を記載した40ページにもなる冊子「ごみ事典」を作成して市民に従わせ、他市町村と比較しても必要以上に厳しい分別の負担を課している。「ごみ事典」に記載した分別方法に少しでも沿わずにごみが排出された場合に、当該ごみが収集されないという事例もあり、特に高齢者世帯では分別に困惑しているのだ。

しかし、実態を知れば驚く。**例えば、プラスチックごみは可燃ごみとは分別することとされているが、実際にはプラスチックごみもその他の可燃ごみと混在したまま焼却している。プラスチックは適切な施設で完全燃焼させれば、有害物質は発生しないというのは今や常識なのにである。**

発行元 **奈良市議会議員 三橋 和史**

【現】 奈良市議会議員（総務委員会）（政党：無所属）
【生まれ】 昭和63年（1988年）12月22日（30歳）
【学歴】 奈良県立奈良高等学校 卒業　明治大学政治経済学部政治学科 卒業　【資格等】 平成23年行政書士試験合格　他
【職歴】 株式会社南都銀行総合職　奈良県庁行政職（災害対策、行政広報、税務等を担当）
【連絡先】 〒631－0842 奈良市菅原東二丁目11番1シャーメゾンN・T101号　E-mail：sanwakai.km@gmail.com

奈良市政News 〈Vol.9〉 令和元年秋号

ホームページやTwitterなどでも日々の政務活動を詳しく紹介していますので、併せてご覧ください。

三橋和史 検索

ごみ処理手数料　家計へ打撃

老朽化ごみ焼却場　建替延期
施設維持管理費用　年間13億円もの損失

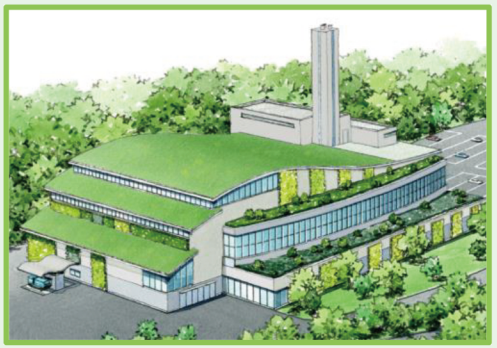
奈良市の現在のごみ焼却場（環境清美工場）の焼却炉は昭和57年から昭和60年にかけて竣工し、既に35年程度が経過して老朽化が著しい。**環境清美工場の維持管理費用は年間18億円である。これは、新施設（新クリーンセンター）を建設して運用した場合の費用である年間５億円の４倍近く、その差額は13億円にも上る。**

実は、**新クリーンセンターの建設候補地は決定していたが、市長は前回の選挙の時期に独断で撤回した。**多額の税金を投入し議論を積み重ねて選定した建設候補地を、市長が選挙に絡めて撤回するというのは言語道断だ。

その後、奈良市は、市内の各自治会等の地縁団体に対して、建設候補地として受け入れてくれる地域を募集した。**ある自治会はこれに応募し、新クリーンセンターの建設可能な土地の所有者も協力的であった地域があった。**

しかし、市長はあろうことか「その自治会は自治会とは認めない。」という驚くべき差別的見解を示し、その地域が応募したことは記録から抹消されてしまった。市長にとって何か不都合な地域だったのか、それとも市長にはもともと他に誘致したい場所があったのか、いずれにしても恣意的で不公正な手続が散見された。

この市長による独断と無能力のために、市民は毎年13億円もの損失を被っている。市長は、自身が招いたその損失を今回のような大幅な値上げにより補填しようという魂胆なのである。



現施設（環境清美工場）	新施設（新クリーンセンター）
18億円/年	5億円/年

新クリーンセンターについては、発電施設が整備され売電できるため、実質的費用は、「維持管理費用（9億円）－売電益（4億円）＝5億円」である。

奈良公園　鹿の保護対策を！

ビニール袋ごみ誤飲　死亡相次ぎ
公園周辺　無害素材の利用促進を提案

奈良のシカ
深刻なビニールごみ誤飲
レジ袋など規制へ
奈良市、条例化検討

新聞やテレビでも報道　◀奈良新聞　▲関西テレビ

人が携えている袋を食べてしまう

奈良公園の鹿がビニール袋を大量に食べて、死亡する事例が相次いでいる。令和元年３月14日から６月12日までに奈良の鹿愛護会が保護した奈良公園の鹿で、死因究明のため解剖した13頭のうち**９頭からビニール袋などの異物が見つかった。**

三橋は、自動車が鹿と接触する交通事故の防止など、鹿を保護するために行政が実施し得る多角的な施策を講ずるよう求め続けてきたが、最近では、外国人観光客なども急激に増加したことにより、奈良公園の環境に悪影響が生じている。

鹿によるビニール袋などの誤飲は、必ずしもポイ捨てされたものだけが原因となっているのではない。多くの観光客らが手にビニール袋を携えたまま鹿にエサをやろうとしたり、頭を撫でようとしたりする際に、鹿にビニール袋を咥えられ、そのまま観光客が驚いて手からビニール袋を離して鹿が食べてしまうという場合が目立つ（右写真参照）。

対策を提案するも、市は放置

三橋は、周辺におけるビニール製レジ袋の配布を規制し、鹿が食べても無害な素材の袋の利用を促進するため小売店などを支援する取組を求めた。これに対して、奈良市は「実態調査を進めて検討する。」と答弁していた。

しかし、その後奈良市は「ごみ拾いをしたから大丈夫！」などと市民と鹿を馬鹿にした言い訳を述べ、事実上、対策を放置している。**奈良市は、鹿を観光の道具に利用しながら、苦しんで死んでいく鹿を見て見ぬふりである。**